

工認作成要領 改訂2からの変更点 比較表

<凡例>  
黒文字：改訂2版から変更ないもの  
赤文字：改訂2版から変更したもの

span>

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】	2次改正【変更前】	備考																		
1	本文 (2-1)	<p>2.2 要目表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) 東海第二発電所登録側の共用する設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="587 636 1371 747"> <thead> <tr> <th colspan="2">要目表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。</td> <td>△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)</td> </tr> </tbody> </table>	要目表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)	<p>2.2 要目表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) 東海第二発電所登録側の共用する設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1507 636 2291 747"> <thead> <tr> <th colspan="2">要目表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。</td> <td>△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 東海第二発電所登録側の重大事故等時のみ共用とする設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1507 894 2291 1020"> <thead> <tr> <th colspan="2">要目表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。</td> <td>緊急時対策所用発電機 (重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)</td> </tr> </tbody> </table>	要目表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)	要目表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	緊急時対策所用発電機 (重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)	<p>・重大事故時のみ東海第二発電所と共用する設備はないことを確認したため、重大事故時の記載は削除しました。 (コメントリスト No. 6696)</p>
要目表の記載方法		記載例																				
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)																				
要目表の記載方法		記載例																				
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	△△ポンプ (東海, 東海第二発電所共用)																				
要目表の記載方法		記載例																				
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)」を記載する。	緊急時対策所用発電機 (重大事故等時のみ東海, 東海第二発電所共用)																				
2	本文 (2-2)	<p>(b) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>「東海第二発電所登録側」に設備仕様一式を記載する。</p>	<p>(c) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>①「東海第二発電所登録側」に設備仕様一式を記載する。</p> <p>②「東海発電所登録側」には、設備仕様一式は記載せず、共用設備の「名称」及び「共用すること」を文章で記載する。</p>	<p>・東海発電所登録側の設備はないことを確認したため、記載を削除しました。</p>																		
3-1	本文 (2-6)	<p>(k) 工事計画書に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。なお、改造にあたって別表第一対象外のポンプは変更後に「-」を記し、注記を付記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。</li> <li>・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。</li> </ul> <p>(別紙1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 9 / 13</span> : ①参照) (別紙1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 10 / 13</span> : ①参照)</p>	<p>(k) 工事計画書に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。</li> <li>・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。</li> </ul> <p>(別紙1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 9 / 12</span> : ①参照)</p>	<p>・改造の対象となるポンプについて、別表第一の記載では「ポンプ除く」と記載されているため、撤去及び廃止したことを明確にするため、記載を追記しました。</p>																		

<凡例>  
 黒文字：改訂2版から変更しないもの  
 赤文字：改訂2版から変更したもの

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】	2次改正【変更前】	備考																																																														
3-2	本文 (2-別 1-17)	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 10/13</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="text-align: center;">変更前</th> <th style="text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">名称</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">廃液フィルタ保持ポンプ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">うず巻形*1</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m<sup>3</sup>/h/個</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="text-align: center;">(26.2*3)</td> </tr> <tr> <td>揚程*4</td> <td>m</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="text-align: center;">(21.6*3)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">1.32*5</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">100*5</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ポンプ 主要寸法</td> <td>吸込口径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">80*3, *6</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">80*3, *6</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">105*3, *6</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">525*3, *6</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">380*3, *6</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>ケーシング*7</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">FC25</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原動機</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">誘導電動機*8</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td style="text-align: center;">5.5</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">—*9 ①の例</p> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。          *2: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。          *3: 公称値を示す。          *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。          *5: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。          *6: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-27図 ポンプ外形図組立断面図(横軸型ポンプその3)」による。          *7: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。          *8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。          *9: <u>撤去対象設備であるため記載を削除する。</u>          ①の例</p>			変更前	変更後	名称		廃液フィルタ保持ポンプ		種類	—	うず巻形*1		容量	m <sup>3</sup> /h/個		(26.2*3)	揚程*4	m		(21.6*3)	最高使用圧力	MPa	1.32*5		最高使用温度	℃	100*5		ポンプ 主要寸法	吸込口径	mm	80*3, *6	吐出口径	mm	80*3, *6	たて	mm	105*3, *6	横	mm	525*3, *6	高さ	mm	380*3, *6	材料	ケーシング*7	—	FC25	個数	—	2		原動機	種類	—	誘導電動機*8	出力	kW/個	5.5	個数	—	2	—	<p>・改造の対象となるポンプについて、別表第一の記載では「ポンプ除く」と記載されているため、撤去及び廃止したことを明確にするため、記載を追記しました。</p>
		変更前	変更後																																																															
名称		廃液フィルタ保持ポンプ																																																																
種類	—	うず巻形*1																																																																
容量	m <sup>3</sup> /h/個		(26.2*3)																																																															
揚程*4	m		(21.6*3)																																																															
最高使用圧力	MPa	1.32*5																																																																
最高使用温度	℃	100*5																																																																
ポンプ 主要寸法	吸込口径	mm	80*3, *6																																																															
	吐出口径	mm	80*3, *6																																																															
	たて	mm	105*3, *6																																																															
	横	mm	525*3, *6																																																															
	高さ	mm	380*3, *6																																																															
材料	ケーシング*7	—	FC25																																																															
個数	—	2																																																																
原動機	種類	—	誘導電動機*8																																																															
	出力	kW/個	5.5																																																															
	個数	—	2																																																															
4	本文 (2-6)	<p>(1) <b>別表第一に該当する取替対象設備については</b>、「変更後」に取替えを実施する旨を注記に記載する。                  (別紙1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 11/13</span> : ①参照)</p>	<p>(1) 取替対象設備であり、取替後も仕様と同じ場合は、「変更後」に取替を実施する旨を注記に記載する。                  (別紙1 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">記載例 10/12</span> : ①参照)</p>	<p>・取替対象設備で取替後も仕様と同じ場合において、対象とする範囲が明確でなかったため、記載を適正化しました。</p>																																																														

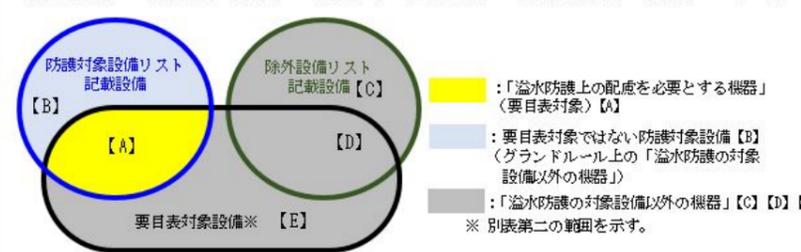
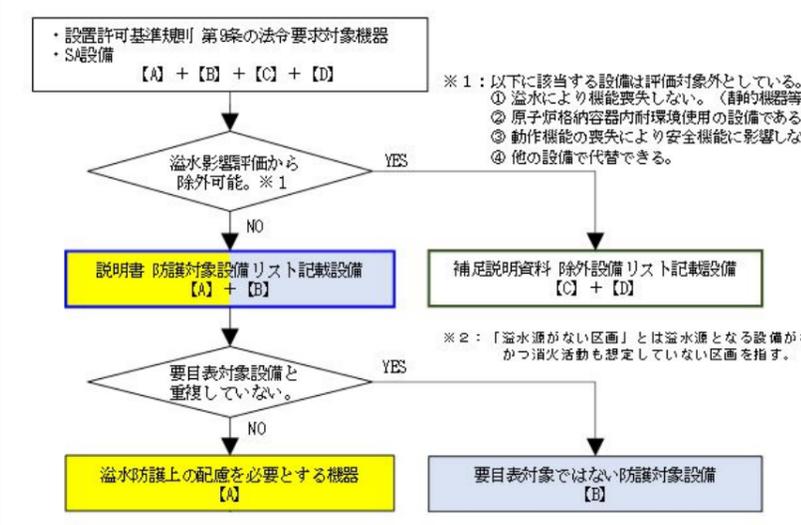
<凡例>  
 黒文字：改訂2版から変更しないもの  
 赤文字：改訂2版から変更したもの

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】	2次改正【変更前】	備考
5	本文 (2-10)	<p>j. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <div data-bbox="611 667 1347 848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既工事計画書（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本工事計画書は、<u>届</u><sup>①</sup><u>け出した</u>工事計画に対して基本設計方針の<u>変更</u><sup>②</sup>を行うことに伴い申請するものである。</p> </div>	<p>j. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <div data-bbox="1537 667 2285 848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既工事計画書（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本工事計画書は、届出した工事計画に対して基本設計方針の変更等を行うことに伴い申請するものである。</p> </div>	<p>・使用前検査未完了の工事の記載について記載例を以下のように修正しました。</p> <p>①「届出した」 → 「届け出した」</p> <p>②「変更等」 → 「変更」</p>
6-1	本文 (2-別 3-2)	<p>3. 「溢水防護上の配慮が必要な機器等」について</p> <p>3.1 防護区画との関係について</p> <p>溢水防護上の配慮を必要とする機器等と溢水防護区画との関係が分かるように要目表の取付箇所の欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。</p> <p>なお、「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」に「防護区画番号」を示した「防護対処設備リスト」と「防護区画図面」を添付することでそれらの関係性を示す。</p> <p>また、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方法については図1及び図2に示す。</p> <p style="text-align: right;">(記載例③参照)</p>	<p>3. 「溢水防護上の配慮が必要な機器等」について</p> <p>3.1 防護区画との関係について</p> <p>溢水防護上の配慮を必要とする機器等と溢水防護区画との関係が分かるように要目表の取付箇所の欄には、その機器が設置される「溢水防護上の区画番号」を記載する。</p> <p>なお、「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」に「防護区画番号」を示した「防護対処設備リスト」と「防護区画図面」を添付することでそれらの関係性を示す。</p> <p>また、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方法については図1に示す。</p> <p style="text-align: right;">(記載例③参照)</p>	<p>・溢水防護上の配慮が必要な高さの記載方法について、要目表に記載する整理フローを追記し、明確にしました。</p>

<凡例>  
 黒文字：改訂2版から変更しないもの  
 赤文字：改訂2版から変更したもの

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】	2次改正【変更前】	備考
7-2	本文 (2-別3-3)	<p>1. グランドルールの考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状のグランドルールのうち、「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方針の主な箇所は以下のとおり。(先行FWRと同様)</li> </ul> <p>「溢水防護上の区画番号」について</p> <p>③ 「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、要目表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。          なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。</p> <p>「溢水防護上の配慮が必要な高さ」について</p> <p>④ 溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定した上で、裕度を設定して要目表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。          なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。</p> <p>上記のルールを踏まえた「溢水防護上の区画番号」および「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載するために用いる資料構成と要目表記載の流れのイメージ図を第1図に示す。</p> <p>※1：防護対象機器が設置されていないため、記載していない。          ※2：「工事計画に係る補足説明資料」の「防護対象設備リスト (DB&amp;SA)」の機能喪失高さが「-」の設備については、要目表の「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を「-」と記載する。</p> <p>図1 「溢水防護上の区画番号」と「溢水防護上の配慮が必要な高さ」の記載方法</p>	<p>・「溢水防護上の配慮を必要とする機器」と「溢水防護の対象設備以外の機器」の記載方法</p> <p>・「溢水防護上の配慮を必要とする機器」と「溢水防護の対象設備以外の機器」の考え方</p> <p> <span style="background-color: yellow;">■</span>：「溢水防護上の配慮を必要とする機器」(要目表対象)【A】  <span style="background-color: lightblue;">■</span>：要目表対象ではない「溢水防護の対象設備以外の機器」(グランドルール上の「溢水防護の対象設備以外の機器」)  <span style="background-color: lightgrey;">■</span>：「溢水防護の対象設備以外の機器」【C】【D】【E】          ※ 別表第二の範囲を示す。     </p>	<p>・溢水防護上の配慮が必要な高さの記載方法について、要目表に記載する整理フローを追記し、明確にしました。</p>

<凡例>  
 黒文字：改訂2版から変更ないもの  
 赤文字：改訂2版から変更したもの

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】	2次改正【変更前】	備考																		
7-3	本文 (2-別 3-4)	<p>・「溢水防護上の配慮を必要とする機器」と「溢水防護の対象設備以外の機器」の考え方</p>  <p>・要目表の整理フロー</p>  <table border="1" data-bbox="563 1407 1335 1617"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>「溢水防護上の区画番号」</th> <th>「溢水防護上の配慮が必要な高さ」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>区画番号を記載する。</td> <td>区画内で最も低い機能喪失高さを記載する。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">要目表対象ではない。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">要目表対象ではない。</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>「-」を記載する。</td> <td>「-」を記載する。</td> </tr> <tr> <td>(参考：E)</td> <td>(「-」を記載する。)</td> <td>(「-」を記載する。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>図2 要目表の整理フロー</p>	分類	「溢水防護上の区画番号」	「溢水防護上の配慮が必要な高さ」	A	区画番号を記載する。	区画内で最も低い機能喪失高さを記載する。	B	要目表対象ではない。		C	要目表対象ではない。		D	「-」を記載する。	「-」を記載する。	(参考：E)	(「-」を記載する。)	(「-」を記載する。)	<p>—</p>	<p>・溢水防護上の配慮が必要な高さの記載方法について、要目表に記載する整理フローを追記し、明確にしました。</p>
分類	「溢水防護上の区画番号」	「溢水防護上の配慮が必要な高さ」																				
A	区画番号を記載する。	区画内で最も低い機能喪失高さを記載する。																				
B	要目表対象ではない。																					
C	要目表対象ではない。																					
D	「-」を記載する。	「-」を記載する。																				
(参考：E)	(「-」を記載する。)	(「-」を記載する。)																				

<凡例>  
 黒文字：改訂2版から変更しないもの  
 赤文字：改訂2版から変更したもの

番号	項目 (頁)	3次改正案【変更後】				2次改正【変更前】				備考																		
8	本文 (6-別 1-18)	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="489 394 638 430">設備</th> <th data-bbox="638 394 771 430">項目</th> <th data-bbox="771 394 875 430">単位</th> <th data-bbox="875 394 1380 430">作成方針</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="489 430 638 1050">主配管</td> <td data-bbox="638 430 771 1050">外径</td> <td data-bbox="771 430 875 1050">mm</td> <td data-bbox="875 430 1380 1050"> <ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則とし記載しない。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="489 1050 638 1180"></td> <td data-bbox="638 1050 771 1180">個数</td> <td data-bbox="771 1050 875 1180">—</td> <td data-bbox="875 1050 1380 1180"> <ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	設備	項目	単位	作成方針	主配管	外径	mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則とし記載しない。</li> </ul>		個数	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1409 394 1558 430">設備</th> <th data-bbox="1558 394 1691 430">項目</th> <th data-bbox="1691 394 1795 430">単位</th> <th data-bbox="1795 394 2315 430">作成方針</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1409 430 1558 1050">主配管</td> <td data-bbox="1558 430 1691 1050">外径</td> <td data-bbox="1691 430 1795 1050">mm</td> <td data-bbox="1795 430 2315 1050"> <ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径及び伸縮継手の外径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則として記載しない。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1409 1050 1558 1180"></td> <td data-bbox="1558 1050 1691 1180">個数</td> <td data-bbox="1691 1050 1795 1180">—</td> <td data-bbox="1795 1050 2315 1180"> <ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	設備	項目	単位	作成方針	主配管	外径	mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径及び伸縮継手の外径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則として記載しない。</li> </ul>		個数	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸縮継手の外径は、選定理由を記載する必要があることから、記載を削除しました。</li> </ul>
設備	項目	単位	作成方針																									
主配管	外径	mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則とし記載しない。</li> </ul>																									
	個数	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul>																									
設備	項目	単位	作成方針																									
主配管	外径	mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>重大事故等対処設備として新たに設置した配管については、当該配管における流量を示し、その流量と配管外径及び標準流速における流量の関係の表から最小配管呼び径が選定され、当該配管の外径が最小配管呼び径以上であることを記載する。 (原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する配管であって、設計基準対象施設として使用する場合と流量が変わらない又は設計基準対象施設と同様の使用方法である旨を記載し、標準流速表は省略する。なお、標準流速を超えて使用する場合には問題ない旨を記載する。(原則として記載例⑩に倣い記載)</li> <li>ホース類は、重大事故等時の可搬性、接続性等を考慮して選定していることを記載する。</li> <li>差込み継手の内径及び伸縮継手の外径は、標準流速を基に径を選定しないため、原則として記載しない。</li> </ul>																									
	個数	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型設備の保有数を記載する。</li> </ul>																									